

# 29CH-am06

球形吸着炭製剤における薬物吸着特性の比較

○阿部 浩之<sup>1</sup>, 大塚 誠<sup>1</sup>(<sup>1</sup>武蔵野大薬)

【目的】球形吸着炭（C A）は，食物中の尿毒症毒素（U T）を吸着することにより，慢性腎不全患者の腎機能低下を遅延させる薬剤である．先発・後発品間での吸着能の差が報告されているが，*in vitro*でのU Tに対する吸着能は，後発品のインタビューフォームを見る限り同等である．C Aは，U T吸着能に優れていることは当然であるが，併用薬の多い腎不全患者においては，U Tより高分子である併用薬を吸着しないことが望ましい．今回，C A製剤間の薬物吸着能について比較を行った．

【方法】先発品（クレメジン，K R）ならびに後発品（メルクメジン，M E）を対象とした．被吸着物質として，アロプリノール（分子量 136.0），ジアゼパム（284.7），プレドニゾロン（360.4），ベンズブロマロン（424.0），プラバスタチンナトリウム（446.5）を用いた．各C A 200mg（臨床投与量の1/10）を100mLの三角フラスコにて，被吸着物質とともに80mL（食事1回あたりの胃液量の1/10相当）の溶液中，37℃，毎分150回，3時間振盪した．溶液は，各製剤の溶出試験に規定される試験液とした．非吸着物質は市販製剤を粉砕し，その1/10量を用いた．振盪後，溶液中の薬物残存量を各薬剤の溶出試験に準拠した方法にて測定・算出した．C Aを含まない溶液を対照とし，吸着量を算出した．

【結果および考察】K Rの吸着率は高く，すべての薬剤で90%以上であった．M Eの吸着率はK Rに比し，いずれの被吸着物質においても低値であり，特に分子量300以上で吸着率の低下は顕著であった．C Aは併用時，他剤を吸着する可能性があり薬効の減少が懸念される．特にK Rにおいては食間における服薬指導を徹底することが必要であると考えられた．